

2017 年 11 月 28 日 (火) 【外為 L a b】松田哲
タイトル: 【現在のドル／円は、「ボックス相場」】

● 「ボックス相場」と「放れる相場」について

相場の値動きを追いかけていると、一定のレンジ（値幅）で上下動を繰り返しているとき、つまり「ボックス相場」のときと、そのレンジをブレイクして（突き破って）、大きく一方方向に突っ走るようなとき、つまり「放れる相場」のときがあることに気が付きます。

どちらのパターンも得意で、柔軟に対応できればよいのだけれど、なかなか、そうはいかないものです。

得意なパターンだけやって、苦手なパターンがきたら、「ストップ・ロス・オーダー」で、自動的に止める。

それが賢い対応だ、と考えています。

+++++

● 「ストップ・セル・オーダー」と「ストップ・バイ・オーダー」

「ストップ・ロス・オーダー (Stop Loss Order)」とは、逆指値（ぎゃくさしね）注文のことです。

たとえば、「現状の値段から、ある一定の値段までドルが下落したら、ドルを売れ」「現状の値段から、ある一定の値段までドルが上昇したら、ドルを買え」といったオーダー（注文）のことを指します。

通常のオーダーは、「現状の値段から、ある一定の値段までドルが下落したら、ドルを買え」「現状の値段から、ある一定の値段までドルが上昇したら、ドルを売れ」という意味ですから、売り買いが逆になっています。

ドル／円の取引で、具体的に説明しましょう。

ドルの値段が上昇するだろうと考えて、ドルの買い持ち（ドル・ロング）にしているときに、その思惑に反して、ドル／円の値段が下落したとします。

当然、損失が発生するのですが、ある一定の値段でストップ・ロス・オーダーを出しておけば、その値段でドルを売って、ドルの持ち高を解消することができます。

このように、それ以上の損失が発生しないようにするために、「損切り」のオーダーを入れる場合があります。

ドルを買い持ちにしているときのストップ・ロス・オーダーは、ドルの売りオーダーになりますから、この場合は「ストップ・セル・オーダー」と言うこともあります。

ドルの値段が下落するだろうと考えて、ドルの売り持ち（ドル・ショート）にしているときに、その思惑に反して、ドル／円の値段が上昇したとします。

この場合も当然、損失が発生します。

ある一定の値段でストップ・ロス・オーダーを出しておけば、その値段でドルを買って、ドルの持ち高を解消することができます。

ドルを売り持ちにしているときのストップ・ロス・オーダーは、ドルの買いオーダーになりますから、この場合は「ストップ・バイ・オーダー」と言うこともあります。

+++++

● 上述は、一般論です。

今年の、今現在のドル／円相場を見てみましょう。

今年は、まだ終わっていませんが、もう 11 月末です。

今年のドル／円のレンジ（最高値と最安値の幅）は、最高値 118 円台、最安値 107 円台ですから、10 円強です。

1 年間のレンジは、少なくとも 20 円程度であることが通常ですから、今年は、極端に値動きの幅が狭い 1 年間、ということになります。

今年は、もう残り 1 カ月ですから、個人的な思惑ですが、正直なところ、年内に、最高値、最安値の更新は無いのだろう、と考えています。

そして、現在のドル／円は、「高値 114 円台ミドル、安値 107 円台前半のボックス相場」を形成中です。

上値の 114 円台ミドルを突破できずに、垂れ下がって来ています。

つまり、「高値 114 円台ミドル、安値 107 円台前半のボックス相場」を維持する過程で、現在は、下値をトライしている最中です。

個人的には、年内は、「高値 114 円台ミドル、安値 107 円台前半のボックス相場」を維持する可能性が高い、と考えます。

現時点でのドル/円は、111 円台前半程度で小動きに推移していますが、上値の適当な水準に、ストップ・ロス・オーダーを置いて、「ドル売り円買い」が正攻法だ、と考えます。

現在値の 111 円台の持ち値で、最高値更新水準（114 円台後半程度）に、ストップ・ロス・オーダーを置くのは、さすがに遠過ぎる（損失額が大き過ぎる）、と考えるので、上値の適当な水準に、ストップ・ロス・オーダーを置くことになります。

+++++

現在の「高値 114 円台ミドル、安値 107 円台前半のボックス相場」の際（きわ）に近い場合、つまり、114 円台ミドルに近い場合、あるいは、107 円台前半に近い場合は、「ストップ・セル・オーダー」や「ストップ・バイ・オーダー」を使って、レンジをブレイクする時に、新たなポジションを作る戦術もあるのですが、現在値（111 円台）は、114 円台ミドルにも遠く、107 円台前半にも遠いので、年内にそのテクニクを使うチャンスは来ないのだろう、と考えています。

ただし、来年に、そのチャンスが必ず来ることになります。

この程度（値幅 7 円程度）のボックス相場が、そうそう長続きすることも、考え難いからです。

+++++

（2017 年 11 月 28 日東京時間 15：15 記述）